

わたしたちの Made in マップ
(調べて→世界地図で発表)

() 組 なまえ_____

領域・形態・時間	話すこと [発表・やり取り] 4人グループ 調査&台本20分+発表20分×2時間
ねらい	教室や学校で見つけた「世界とつながるもの」を、もの→国→地いきの3点セットでグループのマップにして紹介する(単元ゴールの本番)。

やり方 この流れでやってみよう

- 1 Find three things. Check the label!
教室・学校の中から、産地の書いてあるものを3つ見つける(ねだんとメーカーは見ない)
- 2 Fill in the three points.
下の表の()をうめる(①もの→②国→③地いき)
- 3 Put them on the map.
グループの世界地図に、絵と国名をはる
- 4 Who says what? Decide your part.
だれがどの文を言うか、たんとうを決めて名前を書く
- 5 Let's present! Where is it from?
発表! 聞く人はさいごにしつもんを1つ返す

調査&台本シート この3つの()がうまれば、それだけで発表になる

No.	① It's a ().	② It's from ().	③ () is in ().	たんとう
1				
2				
3				

はじめ(全員で): Hello! Look at our map. → 1人ずつ①②③ → おわり(全員で): Many things, many countries! Thank you!

ことばバンク 地いきの言い方(③の2つめの()に入ることば)

Asia アジア Europe ヨーロッパ Africa アフリカ North America 北アメリカ

South America 南アメリカ Oceania オセアニア

国の言い方の例: Japan / China / Vietnam / Indonesia / India / Italy / Germany / Norway / the U.S.A. / Mexico / Brazil / Ecuador / Australia / South Africa (地図で見つけた国は先生に聞いて板書へ)

聞く人のことば：Where is it from? (どこから?) / Really? / Wow, so far! (相づち) / Me, too! (わたしも持ってる!) / さいごに! つつもん → Is it in Asia? (それはアジア?)

ルール

①調べるのは「国」だけ。ねだん・メーカー・ブランドは見ない、言わない、書かない ②教室・学校にあるものからえらぶ(家から持って来なくてよい) ③1人1文以上をたんとうする

☆レベルアップ! 3つのうち2つが同じ地いきだったら「まとなり発見」。気づいたことを1文でそえられたらマップ大使——Two things are from Asia!

先生へ(運用のコツ・中間指導)

- ・第5時に調査と台本、第6・7時で発表。作る日と発表する日を分けるのが時数リアリズム(1時間に詰めると必ず崩壊する)
- ・◎第5時の見取り(知技)は表の()の中で。国と地いきが対応しているか(地図を写した形でOK。英語のつづりは問わない)
- ・産地の表示がない物も必ず出る。No label! も立派な発見として板書に残す——「わからなかった」で終わらせない
- ・第6時の中間指導では「地図を指しながら言った子」「Where is it from? と聞き返した子」を取り上げる。相手意識は技として名づけると全体に広がる

中間指導の進行台本（第6時）

この紙は先生用（1部だけ）：主活動の20分を「1回目 → ことばの補給 → 2回目」のサンドイッチにする先生用の台本。1回目でできなかった質問を、同じ20分のうちに「できた」に変える——時間は1分も足さない。

20分のサンドイッチ 第6時の主活動20分＝Made in マップ発表①を「サンドイッチ」にする

分	やること	先生のうごき
0-7	マップ発表1回目（となりの班と交換）	発表3分＋質問1つ。先生は「質問が出なかった班」を見つけておく
7-9	あつめる：聞きたかったこと・こまった質問	「日本語でOK」と先に宣言する。発表側と見学側の両方から集める（3～4個で十分）
9-12	英語にする：下の補給表から黒板へ	近いものを書き写し、全員で2回ずつ声に出す（先生がその場で英語を作らなくてよい）
12-13	自分の質問にもどす	2回目にする質問を1つ決めて、となりに1回言えたら準備完了
13-20	マップ発表2回目（別の班と交換）	「質問が返ってきて発表は完成」。本番（第7時）の予告をして締める

ことばの補給表 「言いたかった」を、ここから黒板に書き写すだけ

言いたかったこと	こう言える	ひとこと
これはどこの国から？	Where is it from?	単元の質問は、見学側の道具そのもの
知らなかった！	Oh, really? / Wow!	あいづちで発表側は元気になる
ブラジルってどこ？	Where is Brazil?	道案内の単元（5年）の Where is ～? が国にも使える
うちの班も同じ国！	Brazil, too!	too をつけるだけ
それは何？	What's this?	指させば、説明も指さして返せる
（答えに）つまったら	（地図を指して）Brazil.	国名1語＋指さして立派な答え
いい地図だね！	Nice map!	Nice ～! はほめことばの型
もう一回言って	One more time, please.	聞き返しは道具

表にないことばが出たら
「原材料」「輸入」のような社会科のことばは、無理に英語にしない。「それは社会の時間のことば。英語の時間はもの→国→地いきの3文で十分」と返す——深い調べ学習は社会科へ預ける。

先生へ（この20分の勘どころ）
・この20分は主活動そのもの——時間は足さない。第7時のマップ発表本番②も、この台本と同じ進行で回せる
・教室・学校にあるものだけ、を中間指導でも守る——家の持ち物の話が出たら「学校のもので言うത്？」と戻す（この単元最大の地雷）
・補給は見学側の質問に寄せた——発表の3文は台本にある。2回目が伸びるかは質問の数で決まる
・はやい班には「質問係」——よその班の発表に質問を2つ用意させる。先生役は頼まない